

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更などを背景として、緩やかに回復しつつある。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	回復に向けた動きに一服感がみられる	回復に向けた動きに一服感がみられる	
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	4年度は減益見込み	5年度は増益見込み	
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響もみられるものの、外出機会の増加により衣料品や身の回り品が堅調なことから、緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、観光地周辺や繁華街の店舗を中心に好調である。ドラッグストア販売は、食料品や化粧品を中心に好調である。ホームセンター販売は、日用品などの動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品への買い替え需要が続いているものの、弱い動きとなっている。乗用車の新車販売は、納期の改善がみられ、持ち直している。宿泊は、人流の活発化などにより、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 夏物衣料を中心に衣料品の動きが良く、衣料品購入と併せて帽子や靴、カバンを新調する客が多い。外商を強化したこともあり、宝飾品や美術品、時計など高額商品の売上も伸びている。(百貨店・スーパー)
- 大雨の影響により、客足や売上に影響が出ている。最近の雨は降り方が激しいため、営業開始時間やビアガーデン開店時間に降ると客足に大きな影響がある。(百貨店・スーパー)
- 食料品は安いものにシフトする傾向がみられ、コンビニ弁当が高くなっている影響もあり、ワンプレートの冷凍食品の売れ行きが好調である。総菜は自炊より安価な揚げ物が好調な一方で、コロナ禍で低調であった生鮮食品が戻り始めている。消費者が自炊と総菜等とで安く購入できる方を選択している傾向がみられる。(百貨店・スーパー)
- 人流が活発になったことや繁華街での飲食機会が増えたことから、駅周辺や繁華街の店舗が好調。外出機会の増加もあり、おにぎりやパン、総菜が売上を伸ばしており、高単価のおにぎりがよく売れている。(コンビニエンスストア)
- 外出機会の増加により化粧品の伸びが大きく、食料品の売上も堅調。即席めんやお菓子、パンの売れ行きが好調で、まとめ買いをする客も多い。(ドラッグストア)
- 日用品の値上げに伴い、安価なイメージのあるドラッグストアなどに客足が流れている。(ホームセンター)
- 省エネ性能の高い製品は堅調に推移しているが、旅行などへの消費シフトにより厳しい状況。(家電大型専門店)
- 車種によってばらつきはあるものの、部材供給の改善に伴う生産回復により納期は短くなっており、新車の登録台数は増加傾向にある。(自動車業界団体)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行後、これまで旅行を控えていた高齢層の宿泊需要が高まっている。(宿泊業界団体)
- 平日のランチ時間帯や土日だけでなく、平日のディナー時間帯の客数も増えており、来店客数、売上ともにコロナ禍前の水準を上回っている。(ファミリーレストラン)

■ 生産活動 「回復に向けた動きに一服感がみられる」

食料品等は、外食向け需要の増加などにより、持ち直しつつある。電子部品・デバイスは、高水準を維持している。化学・石油製品は、海外需要の鈍さもあり、弱含んでいる。汎用・生産用・業務用機械は、増加傾向に一服感がみられる。輸送機械は、持ち直している。

- 酒類については、家庭向けは外食需要の戻りや値上げの影響もあり前年の生産水準を下回っているものの、業務用は順調に回復しており、コロナ禍前の生産水準に戻ってきている。(食料品等)
- 海外経済の減速の影響がみられるものの、高付加価値製品を中心に高い生産水準を維持している。(電子部品・デバイス)
- 海外経済の回復が想定ほど戻っておらず、海外向け需要に力強さが無い。(化学・石油製品)
- 生産水準は高いものの、パソコンやスマートフォン市場の低迷などにより取引先が設備投資の見直しを行っているため、前年よりは生産水準を落としている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 完成車メーカーの稼働が半導体不足の影響で止まることがなくなっているため、計画を上回る生産を続けている。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、このところ低下している。新規求人数は、製造業は前年を下回っているものの、小売業、宿泊業などで前年を上回っている。

- 世界的に半導体が生産調整局面にあるため、半導体関連産業で求人が減少している。(公的機関)
- 人流が活発化したため、宿泊・娯楽施設からの警備や保守メンテナンス等の求人が増加している。(公的機関)
- 物価高による生活費の負担増加により、賃金の高い会社やパートからフルタイムへ切り替える転職の動きがみられる。(公的機関)
- 外出機会の増加による客室稼働率の上昇で人手不足が生じており、募集はかけているものの応募が少ない状況が続いている。(宿泊業)

- **設備投資** 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4～6月期
 - 製造業では「電気機械器具製造業」などで減少見込み、「化学工業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では「金融業、保険業」などで増加見込み、「運輸業、郵便業」などで減少見込みとなっており、全体では減少見込みとなっている。

- 生産設備増強に係る設備投資。(化学工業)
- システム開発に係る設備投資。(金融業、保険業)

- **企業収益** 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4～6月期
 - 製造業では「生産用機械器具製造業」などで減益見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では「小売業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。
- **住宅建設** 「持ち直しつつある」
 - 新設住宅着工戸数(5年3～5月)をみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を下回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 「現状判断は『上昇』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4～6月期
 - 5年4～6月期の景況判断BSIをみると、全産業では「上昇」超となっている。先行き(全産業)をみると、5年7～9月期は「上昇」超の見通しとなっている。
- **公共事業**
 - 公共工事請負金額(5年4～6月累計)をみると、前年度を上回っている。
- **倒産**
 - 企業倒産(5年4～6月期)は、件数は前年を上回り、負債総額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(5年4月判断)	今回(5年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している		個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更などを背景として、回復しつつある。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、拡大の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
大分県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更などを背景として、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械において受注の改善が進むなど、持ち直している。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などにおいて新規求人数の増加が続くなど、緩やかに改善している。
宮崎県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更などを背景として、緩やかに回復しつつある。生産活動は、供給面での制約などの影響がみられるなか、食料品工業などに弱さがみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などを中心に緩やかに改善しつつある。
鹿児島県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更などを背景として、緩やかに回復しつつある。生産活動は、在庫調整に伴い減少した受注が回復しておらず、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。